

2019年10月7日
丸紅株式会社

アグリスタートアップ MoBiol Holdings Pte. Ltd との戦略的パートナーシップ契約締結について ～SDGs 推進に貢献するソリューション提供に向けて～

丸紅株式会社（以下、「丸紅」）は、パーム油の製造工程で発生するパーム油廃液（Palm Oil Mill Effluent, 以下、「POME」）から、微細藻類（以下、「藻」）を利用し、代替タンパク・DHA(※)を抽出するノウハウを有する MoBiol Holdings Pte. Ltd（以下、「MoBiol」）と資本提携、並びに戦略的パートナーシップに係る契約を締結しました。

MoBiol と丸紅は、藻由来の代替タンパク及び DHA の飼料原料としての販売可能性・テストマーケティングを含む事業化に向けた実証実験を実施することにより、POME の処理過程で発生する温室効果ガスの排出、並びに水産養殖業の養殖用飼料としての天然資源依存という二つの社会課題の解決に向け、双方のリソースを活用し取り組んでいきます。

POME の処理過程において大量のメタンガス（以下、「CH₄」）が発生することから、環境への影響が懸念されています。CH₄ は、CO₂ の約 25 倍程度の温室効果があり、パーム産業界にとって POME 処理方法の環境負荷低減は大きな課題です。また、新興国を中心とした世界的な水産物需要の増加に伴うアジア各地での水産養殖業の増加も、天然魚由来の魚粉・魚油が養殖用飼料として大量消費される要因となっており、天然水産資源に対する環境負荷が懸念されています。このような環境負荷の低減に向け、世界中で魚粉代替原料や DHA を含んだ魚油代替原料が、現在開発途上の段階にあります。

上記社会課題に対して MoBiol は、独自の藻を使用し、従来 POME の処理過程で発生していた CH₄ を生じさせることなく POME を分解することができるソリューションを保有しています。また、同技術をパーム産業界に提供するのみならず、当該藻は、枯渇が懸念される良質なタンパク・DHA となり得るため、SDGs が目指す持続可能な循環型社会の実現に寄与すると考えています。このような取組が評価され、MoBiol は、ジャカルタでの経済産業調整省主催フォーラム（2019年5月24日）において、インドネシア政府より紹介される等、環境課題のソリューション提供企業として強い期待を受けています。

丸紅は今後も、MoBiol のような社会課題に向き合い先進的な取組みをしているスタートアップとの連携を加速させ、穀物原料供給から食品製品販売のサプライチェーン各段階において、持続可能な社会の実現に貢献できるビジネスを構築していきます。

(※) : Docosahexaenoic acid（ドコサヘキサエン酸）の略。必須脂肪酸の一つ。

【MoBiol 概要】

会社名	MoBiol Holdings Pte. Ltd（モビオール ホールディングス）
本社所在地	シンガポール

Marubeni

設立 2019年2月
代表者 代表取締役 CEO 中島敏秀

以上